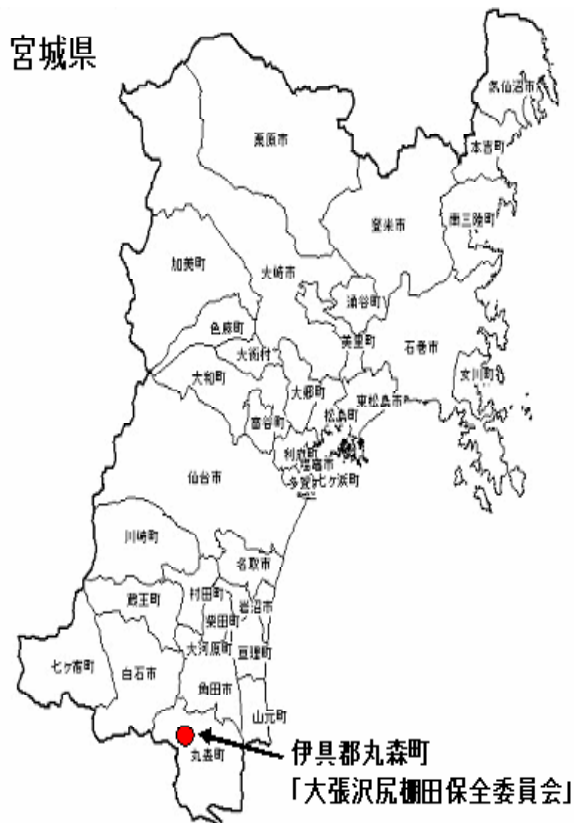


平成18年度農林水産大臣賞

宮城県伊具郡丸森町

「大張沢尻棚田保全委員会」

【位置図】



【地区の概要】

事 項	内 容	
地区の規模	集落	
地区の性格	中間農業地域	
農 家 率	72.4%	
	(内訳)	
	総世帯数	29戸
	農 家 数	21戸
販売農家数	20戸	
	(内訳)	
	専業農家	3戸
	I 兼農家	0戸
	II 兼農家	17戸
主要作物 ()内産出額(※)	水 稻	(1,530百万円)
	生 乳	(1,130百万円)
	鶏 卵	(510百万円)
農用地の状況	耕地計	25.7ha
	(内訳)	
	田	14.4ha
	畑	3.9ha
	樹園地	7.4ha
	耕地率	10%
	農家一戸当たり農用地面積	1.3ha

※ 農業産出額は丸森町全体の数字

【むらづくりの経緯・動機等】

・ 高齢化や過疎化により、地区が誇りとしてきた「沢尻棚田」の存続や地区の活力減退への懸念が高まるなか、平成11年に「沢尻棚田」が農林水産省「日本の棚田百選」に認定される。これを契機に、美しい棚田の景観や自然環境、豊富な山の幸、新鮮な農産物を地域資源として位置付け、これらを有効活用した都市住民との交流により、棚田を守り、地区の活性化を図っていくため、平成12年に地区農家7戸により「大張沢尻棚田保全委員会」を結成。

・ 棚田での田植えから稲刈り等を行う農作業体験ツアー - 「棚田保全援助隊」を平成12年から実施。

【推進体制】

・ 当委員会は棚田所有者5戸を含む地区農家7戸の世帯主から成る保全委員7名と、各戸の全世帯員17名の計24名で構成。(うち11名が女性。年齢構成は30代後半から70代)

・ 年4回の農業体験ツアー「棚田保全援助隊」は保全委員所有の棚田や畑などを主会場に、メンバー各自の得意分野を活かしたメニューにより実施されている。

【生産面における寄与状況】

- ・ 「棚田保全援助隊」の実施を通して環境保全型農業への意識が強くなり、耕畜連携で稲わらと交換した堆肥の施用を拡大するとともに、JAみやぎ仙南が推進する特別栽培米「ふるさと米」の生産者が増加。
- ・ 沢尻棚田で生産された「棚田米」を地区のほぼ全世帯が共同出資で設置した「大張物産センターなんでもや」で販売。

【生活・環境整備面における寄与状況】

- ・ 「棚田保全援助隊」の参加者や棚田の見学者への環境整備と棚田の作業効率化のため、平成17年度に元気な地域づくり交付金により農道を整備。
- ・ 「棚田保全援助隊」では、棚田での稲作体験の他に、たけのこ掘り、梅酒づくり、ころ柿づくり、椎茸の植菌など季節毎に地元の地域資源を活かした多彩なメニューで実施され、地元食材を用いた「ふきの煮物」や「おこわ」、「山菜の天ぷら」、「雑煮」などの昼食も人気が高い。
- ・ 「棚田保全援助隊」の取組を通じて年間約2千人が棚田を訪れるなど、棚田保全のサポートの輪が広がり、美しい農村景観が保たれているとともに、観光の振興や農産物販売の拡大も図られ、地区は活気を取り戻している。



江戸時代から昭和30年代頃にかけて整備された「沢尻農作業体験ツアー - 棚田保全援助隊」の田植え体験棚田」、総面積4.1ha、平均勾配1/8（8m進んだ時に1m上がる傾斜）



地元食材をふんだんに使った昼食



稲作体験のほか、ころ柿づくりなどの季節に応じた多彩なメニューを体験できる。